

## 館長講評

### 本を仲立ちにしたコミュニケーション

図書館長  
前川 貴史

今年も、本学図書館が所蔵する図書や電子図書の魅力を紹介し、学生同士で読書の楽しさを分かち合うことを目的として、「私のお薦め本コンテスト」を実施しました。例年と同じく、今回のコンテストにも、多くの意欲的で個性あふれる作品が寄せられました。まずは、受賞された皆さんに心よりお祝いを申し上げるとともに、参加してくださった皆さんに、あらためて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

受賞作品はもちろんのこと、惜しくも受賞に至らなかつた作品にも、内容への鋭い洞察や、読書体験と自身の経験とを結びつける視点がありました。どの作品も、本とじっくり向き合い、自分なりの感受性による読書体験の結晶だと感じます。また、応募作品を読んで強く感じたのは、「この面白さを誰かに伝えたい」という率直な思いが生き生きと伝わってくるということでした。応募作はいずれも、本を媒介として他者とコミュニケーションを図る、きわめて知的で創造的な試みであったと言えるでしょう。

本を読む楽しさは、物語の展開に引き込まれたり、新しい知識に出会つたりすることだけではありません。ときには気になる一文で立ち止まり、「なぜだろう」と考えたり、自分の経験と重ね合わせて想像をふくらませたりしながら、自分なりに深読みをしていくことも、読書体験の大きな魅力です。そして、そのように味わつた一冊について、自分の言葉で自由に語ることには、読むこととは違つた喜びがあります。今回のコンテストでは、その気持ちを、参加者一人ひとりがのびのびと表現してくれたように思います。

皆さんの応募作は、読んだ人に「この本を手に取つてみたい」と思わせる力を持っています。同時に、「自分も好きな本について語つてみたい」という気持ちを呼び起こすきっかけにもなるでしょう。これからも、自分の好きな本を大切に読み、考え、楽しみながら、ぜひ周りの人と分かち合つてください。それによつて、本学図書館にある本が、新たな読者と出会い、読書の楽しさが多くの学生に広がつていくことを期待しています。